

歴博くらしの植物苑だより

小・中学生の入苑料が無料になりました。

くらしの植物苑観察会 くらしの植物苑東屋 13:30 から

第108回 3月22日(土)『古代のウメとサクラ』仁藤敦史 (本館研究部歴史研究系)

第109回 4月29日(火) 歴博みどりの日 **入苑料無料**

『新緑の城址公園を歩く』 中川重年 (本館研究部客員教授)

今週のみどころ 毎週木曜更新 <http://rekihahu.ac.jp>

今さいている花：ナバナ、ウメ（白・桃・八重）、サンシュユ、アカバナマンサク、シナマンサク、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ナズナ、ヒメオドリコソウ、フキ、ダンコウバイ、ハルサザンカ群、ヒメサザンカ群、ヤブツバキ、ツバキ

本館第3展示室 リニューアル オープン

江戸をながめる！？

江戸時代の人びとの生活や文化を展示しています。「国際社会のなかの近世日本」「都市の生活」「ひとともの流れ」「村からみえる『近世』」の4テーマが紹介されています。

トサミズキ (マンサク科トサミズキ属)

日本固有の植物で、高知県の蛇紋岩や石灰岩地域のみにも生育します。早春に黄色の花を穂状にたらしめます。花序の長さは4cmほどで、雄しべの葯が暗赤色です。春を彩る花としてよく植栽されています。



ジンチョウゲ (ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属)

常緑の低木で春先に10以上の花を頭状に咲かせます。花弁に見えるものはがくで外側は紫紅色、内面は白色です。芳香が強く庭木としてよく植えられています。左は花全部が白色のシロバナジンチョウゲの品種です。

英：Daphne, 中：瑞香といいます。



ヒサカキ (ツバキ科ヒサカキ属)

暖地の常緑低木で雌雄異株です。花は下向きにさき、臭いがあります。左は雌花で花も少し小さくまばらについています。真ん中は雄花。中右は花弁を取ったところで左が雌しべで右が雄しべです。



シキミ (シキミ科シキミ属)

仏時の時に利用される常緑の小高木。花は淡黄緑色で、輪生します。葉には油点があり傷つけると抹香の香りがします。苑には紅赤色の園芸品種もあります。

英：Japanese Anise-Tree、中：密といいます。



ヤマモモ (ヤマモモ科ヤマモモ属)

樹脂状の芳香を有する雌雄異株の常緑高木。左は雄花序で赤褐色で多数の花をつけます。右は雌花序で短く数個の花をつけます。6月頃に赤い球形の果実をつけます。英：Chinese Strawberry Tree、中：楊梅といいます。



カンヒザクラ (バラ科サクラ属)

3月下旬頃に濃紅色の釣鐘形で垂れる花をつけます。花は一重の中輪です、開花期は長く、太いがく筒を持ちます。寒緋桜、緋寒桜、元日桜などとも呼ばれます。苑に隣接している佐倉城址公園には50品種近い桜が植栽されています。

